

夢湧き、夢に夢中

第1号

令和7年4月11日 文責：大谷

夢が湧き、夢を叶えることに夢中になれる生徒の育成

「やきゅうせんしゅ」

今、世界で最も活躍している日本人と言っても過言ではないほど今をときめいているメジャー・リーガー大谷 翔平選手（ロサンゼルス・ドジャース）は、「あなたのゆめはなんですか？」という質問に、こう書いた。小学一年生の時だ。

それから、彼は年齢を重ねる度に、その夢をアップデートしてきた。特に高校時代に彼が綴った「夢ノート」のマンガラチャート（写真は、その最たるものだ。ハチーマスの一つ一つに「これを叶えれば、次につながる」というわくわく感がある。きつと大谷選手は、あの一マスマスを叶えるべく努力しながら夢を叶えた将来の自分にわくわく感を見出していたのではないだろうか。そして、それを現実のものとした今の活躍ぶりは、決して偶然ではなく必然であることは言うまでもなく、「夢に夢中になれる人は、自分の人生を豊かにするばかりか、周りの人をも幸せにする」象徴的な人である。だから、わたしたちは魅了されるのだ。

今年度の学校教育目標を、上記のようにした。昨年度と同様である。しかし、一年目と二年目では、そこに込める思いは異なる。

大谷選手ではないが、やはり二年目となるとアップデートされるのだ。では、どこが新たに更新されたのか。始業式で「夢に夢中になれる学校とは」と話をさせていたが、ここでもう少しわたしの思いを書かせていただく。



●全員が安心して学べる、安全な場所であること
明日叶えたい夢が湧き、その夢を叶えるために夢中になるためには、学校が安心できる安全な場所であればならない。いじめや差別が横行するつらく苦しい場所では、夢なんて到底語ることはできない。だから、わたしたちはいじめや差別を絶対に許さない誰もが安心して学べる学校にしなければならない。

●自分で考え、自分で決める
夢を叶えるのは、最後は自分だ。大谷選手がマンガラチャートにある一マスを見て、「これは面倒だからやめた」と一つでも諦めていたら、もしかしたら今の夢を叶えることができなかったかもしれない。夢を湧かせるのも自分、夢を叶えるために夢中になるのも自分。最後は、自分でどうするか考え、自分で決めるしかない。だから、主体的な日常にこだわりたい。

●自分もいい、みんなもいい
「自分だけよければ、それでいい」ではなく、常に自分にとっても、みんなにとっても最適解を見出そうとする判断と行動を求めたい。大切なのは、自分だけではなく、みんなも夢に夢中になれる学校にするにはどうすればいいか、である。そして、それは誰が考えるのではなく、ここにいる全員が考えるのである。

「小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道」（2004年 イチロー選手）
どんな壮大な夢であろうと、小さな夢の積み重ねがあれば、それは夢ではなくいつか現実になる。だから、さっそく南中ノートを開いて書いてほしい。
「あなたの令和七年度の夢はなんですか？」

■桜花爛漫のなか、73名の新入生を迎え、令和7年度がスタートしました。今年度も生徒及び保護者の皆様方とともに南阿蘇中学校の一員として働かせていただけることを光栄に思います。また、今年度も学校だより“夢湧き、夢に夢中”を発行させていただきます。読みづらい点多々あるかと思いますが、お読みいただければ幸いです。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

学校 HP はコチラ→

